



ナンテン
中庭(職員室前)

つな が り

自ら動き、感じ、楽しむ ～笑顔あふれる幼稚園～
～やさしく かしく たくましく～

第 10 号
R3. 12. 20

山口大学教育学部附属幼稚園

「楽しみなこと」があるということ

副園長 大森 洋子

子どもたちの生活は、11月下旬頃から一気にクリスマスモードになりました。ある日、星組の数人が、サンタクロースやトナカイになって小さいクラスを回ってプレゼントを配り始めると、たちまち大人気に。他のクラスでもサンタさんになって楽しむ姿が見られました。星組では、プレゼントがほしい小さい人が増えてきたので、プレゼントの注文を受け付けるようになりました。花組や風組は、「ばいきんまん」とか「けん」とか「くまのぬいぐるみ」とか好きなお願いを書いて(もらって)いますが、星組は、それを見てはそれらしきものを作ったり、「これはもうつくったから、次はこっち」とうまくさばいたり、「こっちは〇〇ちゃんのだから、届けて」などと配ったりしています。まるで「サンタ工場」のようで、大忙しです。受け取る花組や風組も、きっといろいろな思いをもってお願いしたのでしょうか、イメージと違うなどと言ったりはせず、プレゼントをちゃんと受け取ってくれています。「プレゼントが届いたこと」がうれしいのです。花組も風組も星組も一緒に「遊びのひとつ」として理解して「ごっこ」が成立していて、「相手のことを思う気持ち」が育っていると思います、うれしくなりました。

リースやオーナメントをつくったり、折り紙でサンタクロースを折ったりしながらクリスマス会を待ったり、星組のクリスマスの劇を見たり見てもらったりすることを楽しみにしながら日々を過ごしてきました。「楽しみなこと」があることは、子どもたちの心と生活を豊かにしてくれるなあと、つくづく思いました。



12/17 クリスマス会 星組の劇を見たり、素敵なピアノ演奏を聴いたりしていると・・・サンタクロースが来てくれました。

中学生の保育体験：4学級の生徒たちが4日にわたって来園しました。「中学生が来るよ」というと、子どもたちはみんな楽しみにして部屋に入っていきます。「身近なお兄さんお姉さん」の存在ってこんなにもうれしいのです。中学生が考えてきてくれたことは、クイズやゲームなど様々でしたが、子どもたちはそれなりに理解し応じて、楽しんでいました。つり竿を細いたこ糸で作っていた中学生は、糸が絡んでもつれて、「やっぱりこうなるんか」とつぶやいていました。すごろくを教えてくれた中学生は、6がでるまでサイコロを投げ続けるAくんの姿に驚いていましたが、「これが最後よ。今度出た数で進むよ」と臨機応変に答えていました。こんなふうに触れ合いながら、園児を知り、「かわいい」と思ってくれた1日でした。



新型コロナウイルス感染症については、予断を許さないものの、昨年末よりは制限の少ない年末・年始を送れそうです。現在は、全国的にも本県・本園においても国内の移動制限等はありません。きっと2年ぶりあるいは久々に会える方々もおありのことでしょう。保健便りにもありましたように「正しく恐れる」ことを忘れず、しっかりと対策を講じて、よいお休みにしていただければと思います。みんなが元気で会えることを楽しみにしています。